



いわて医療通信 肝臓の疾患③

慢性C型肝炎の特徴

慢性C型肝炎とは、前回記載した慢性B型肝炎と同様に、肝炎を起こすウイルス(C型肝炎ウイルス：HCV)の感染によって、6カ月以上にわたって肝臓

の炎症状態が続き、肝臓の働きが悪くなる病気です。日本における慢性肝炎の原因として、最多となっている。初期症状はほとんどありませんが、治療せず放置しておく、長い経過のうち肝硬変や肝がんに行きやすいことが知られています。

慢性C型肝炎とは、前回記載した慢性B型肝炎と同様に、肝炎を起こすウイルス(C型肝炎ウイルス：HCV)の感染によって、6カ月以上にわたって肝臓の炎症状態が続き、肝臓の働きが悪くなる病気です。日本における慢性肝炎の原因として、最多となっている。初期症状はほとんどありませんが、治療せず放置しておく、長い経過のうち肝硬変や肝がんに行きやすいことが知られています。

慢性C型肝炎とは、前回記載した慢性B型肝炎と同様に、肝炎を起こすウイルス(C型肝炎ウイルス：HCV)の感染によって、6カ月以上にわたって肝臓の炎症状態が続き、肝臓の働きが悪くなる病気です。日本における慢性肝炎の原因として、最多となっている。初期症状はほとんどありませんが、治療せず放置しておく、長い経過のうち肝硬変や肝がんに行きやすいことが知られています。

慢性C型肝炎とは、前回記載した慢性B型肝炎と同様に、肝炎を起こすウイルス(C型肝炎ウイルス：HCV)の感染によって、6カ月以上にわたって肝臓の炎症状態が続き、肝臓の働きが悪くなる病気です。日本における慢性肝炎の原因として、最多となっている。初期症状はほとんどありませんが、治療せず放置しておく、長い経過のうち肝硬変や肝がんに行きやすいことが知られています。

慢性C型肝炎とは、前回記載した慢性B型肝炎と同様に、肝炎を起こすウイルス(C型肝炎ウイルス：HCV)の感染によって、6カ月以上にわたって肝臓の炎症状態が続き、肝臓の働きが悪くなる病気です。日本における慢性肝炎の原因として、最多となっている。初期症状はほとんどありませんが、治療せず放置しておく、長い経過のうち肝硬変や肝がんに行きやすいことが知られています。

慢性C型肝炎とは、前回記載した慢性B型肝炎と同様に、肝炎を起こすウイルス(C型肝炎ウイルス：HCV)の感染によって、6カ月以上にわたって肝臓の炎症状態が続き、肝臓の働きが悪くなる病気です。日本における慢性肝炎の原因として、最多となっている。初期症状はほとんどありませんが、治療せず放置しておく、長い経過のうち肝硬変や肝がんに行きやすいことが知られています。

慢性C型肝炎とは、前回記載した慢性B型肝炎と同様に、肝炎を起こすウイルス(C型肝炎ウイルス：HCV)の感染によって、6カ月以上にわたって肝臓の炎症状態が続き、肝臓の働きが悪くなる病気です。日本における慢性肝炎の原因として、最多となっている。初期症状はほとんどありませんが、治療せず放置しておく、長い経過のうち肝硬変や肝がんに行きやすいことが知られています。



岩手医科大学 Iwate Medical University